

「ありがとう」と 言われる教育を 目指しています

電波学園 理事長／名古屋工学院専門学校 校長 小川明治
まごめ／清水由佳 撮影／水谷文彦



【理事長・校長プロフィール】1946年生まれ、名城大学理工学部数学科卒業。一般企業を経て、76年より学校法人電波学園に勤務。東海工業専門学校校長を経て、2005年より学校法人電波学園理事長。全国高等専修学校協会副会長、愛知県私立学校審議会委員など役職多数。

【専門学校プロフィール】1952年、名古屋無線電信学校として設立。技術専攻科（現・電子情報学科）、テレビ技術科（現・デジタル家電科）など時代とともに増科し、76年専修学校に認可される。91年、現校名となる。現在、6分野23学科。

本校は、まもなく設立60周年を迎えます。この60年の間、常に時代のニーズに応じた人材育成を心がけ、現在は、コンピュータ・IT分野、ゲーム・CG分野、映像・音響分野、電気分野、電子・デジタル家電分野、機械・ロボットCAD分野といった6つの分野に23の学科を設けるまでになりました。さらに、本校の大きな特徴の一つでもある本物志向の実習に力を注ぎ、最新の施設・設備を充実させてきました。

しかし、いかに施設・設備を充実させ、学科編成やカリキュラムを時代に合った構成にしたとしても、一番重要なのは、教員の意識。時代の変化に即した教員の意識改革ができなければ、何も変わることはできません。

教員の意識改革が必要とされるのは、社会のニーズや学生が置かれた状況をきちんと把握し、既成概念にとらわれない柔軟な対応ができることです。そのため、教員には積極的に学校外での研修会に参加したり、様々な業界や企業の人と交流を図るように勧めています。

また、本校は、大学1校、短期大学1校、高校1校、専門学校8校を擁する総合学園の中の1校です。このスケールを生

かした、学校間の情報交換も貴重です。例えば就職が厳しい昨今、企業情報を共有することで、より学生に役立つ情報提供ができるようになってきました。そのような連携は、今後も様々な分野で実施すべきだと考えています。さらに、学園全体での組織のあり方を考える「将来構想委員会」も発足し、より新しいものを作っていくと努めています。

もちろん、どれだけ時代が変わっても、変えてはいけないものがあります。それは、「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」という建学の精神です。この建学の精神のもとに、すべての教育が行われるべきだと考えています。

最終的には、卒業生に「ありがとう」と言ってもらえる教育が目標なんです。「この学校で学んでよかった」「卒業生でよかった」と言ってもらえることが、われわれ教育者にとっては何よりの言葉。そのため、学生に迎合するのではなく、授業を一生懸命行い、目の前の学生をかわいがる。そういう学校であり続けたいと思っています。